

第13回富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議の概要

- 1 日 時 令和5年3月23日（木）
- 2 場 所 書面開催
- 3 内 容 富山県食品ロス削減推進計画に基づく取組みについて
（1）令和4年度事業の実施状況について
（2）令和5年度事業の取組みについて

4 主な意見の概要

<食品ロス削減対策全般>

- ・ 食品ロス・食品廃棄物実態把握調査について、前回の調査結果との比較ができるような調査条件にしていきたい。
- ・ 計画策定時に比べ、認識、実践ともに向上していることは喜ばしい。今後も啓発に努めていきたい。
- ・ エシカル消費のPRについて、連携を取りながら計画的に進めていきたい。
- ・ エコフィード活用食品のブランド化について、県民会議関係者や消費者団体も含め、積極的に取組みを広げることが重要。
- ・ コロナ禍によりできなかった取組みが今後進められることを期待している。
- ・ 賞味期限の問題や家庭から出るごみの減量に積極的に取り組む。
- ・ 食品ロス削減の取組みは負担ではなく、食料を大切に使い切り、食べきり、コスト削減にも役立つと実感できる状況の創出を期待する。

<事業系食品ロス>

- ・ 食べきり3015運動の実践、啓発などの取組みを継続している。
- ・ 厨房における食材の使い切り、発注時のロス削減の努力を実践している。
- ・ 食品関連事業者自らが、継続的に食品ロスの発生量を計測、記録してその発生状況や要因を把握することで、食品ロス・食品廃棄物等の発生抑制や処理コスト削減につながると考える。
- ・ 事業の成果を見える化、定量化し、県民や事業者との共感を広げ、相乗効果をあげることが重要である。

<未利用食品の有効活用>

- ・ 県民の理解促進と参加の拡大が重要である。フードドライブとフードバンク活動の違い、フードドライブで提供可能な食品の賞味期限はいつまでか、どこに食品をもっていけばよいのか等、基本的事項に関する消費者の理解が不足している。